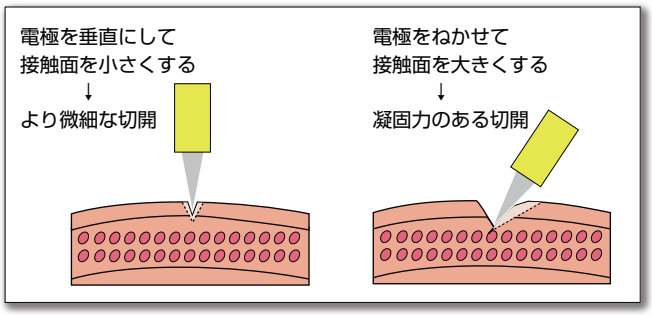
エンパイアニードル電極による混合切開および止血のポイント

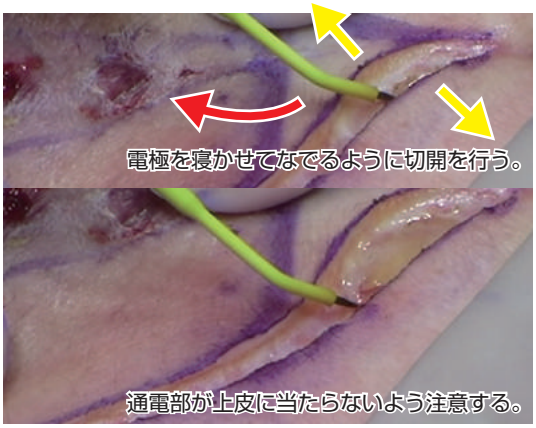
● 混合切開のポイント

この電極は、円錐形状の「面」の部分を使うことにより、皮下組織を凝固しながら切開を行います。また、切開の際に、出血した時、高周波ラジオ波メスの特徴である焦げない凝固特性により、組織を白く煮えるように凝固することができます。



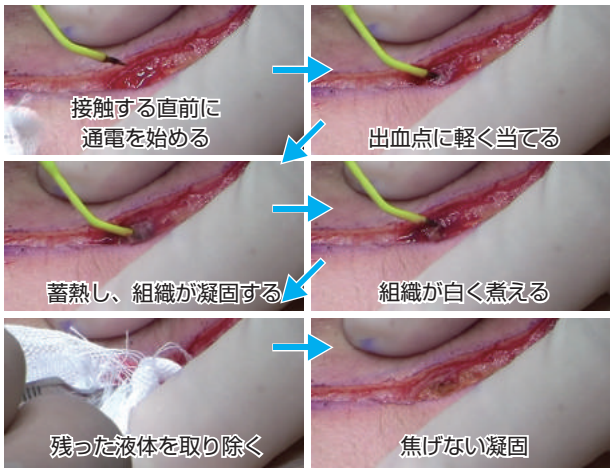
【止血切開の手順】

切開を進めて行く部分に鉗子や指などを用いてテンションをかけます。
通電をはじめてから、皮膚切開のように組織に対して垂直ではなく、少し寝かせて円錐形状の「面」使って切開を行います。その時、操作速度は、ゆっくりにします。

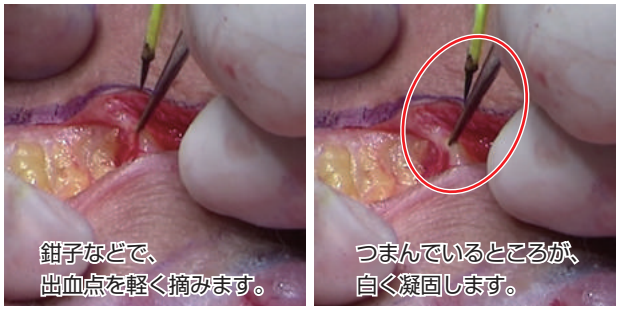


【止血のポイント】

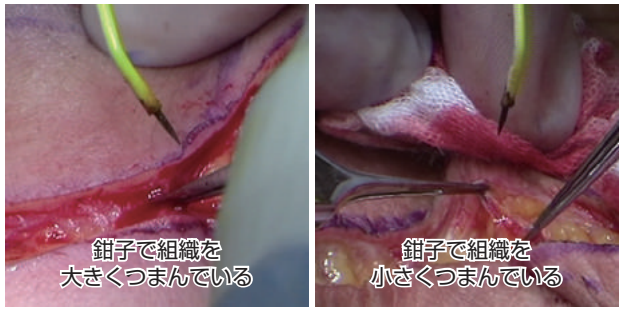
ゆっくり操作しても出血した時は、慌てず、写真のように出血点に円錐の「面」を当てて通電します。
このとき、出血点に電極を押し当てず、軽く接触させるようにします。



出血が中々止まらない時や奥まった部位、出血の量が多い時は、鉗子などで、出血点を軽く摘みます。その摘んだ鉗子などに通電しながら電極を接触し、間接止血を行います。



注：間接止血の際、鉗子で組織を摘む時、大きくつまむと、うまく止血出来ません。出来るだけ小さくつまむようにします。



注：凝固切開、止血などで通電をしている際、その通電面を切開した上皮に当てないように注意が必要です。上皮に接触した状態で通電すると、皮膚の結合が遅くなる可能性があります。

【凝固切開時の出力設定】

機　種	モード	出　力
サージトロン DUAL	BLEND	20～30
	COAG	13～25
サージトロン S5	BLEND	15～25
	COAG	10～20

注：この出力設定は目安です。状況により先生方のご判断で出力設定を変更して下さい。

← 組織にかけるテンションの方向
← 電極の操作方向